

別添 3

令和 5 年度 厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業 総括研究報告書

「乳がん検診の受診率に関わる諸因子の解明と、 受診率向上に向けた効果的な方策に資する研究」

研究代表者 鈴木昭彦 東北医科薬科大学乳腺内分泌外科 教授

研究要旨 乳がん検診の受診の障害となる社会的、経済的、ジェンダー特有の要因などを包括的に調査、究明することを第一段階の目的としアンケート調査を行った。検診の受診契機は 40 代、50 代では住民検診と職域検診とがおよそ 30% ずつであった。受診の間隔は 40 代 50 代でおよそ 3 割が毎年受診していると回答しており、職域検診での受診を反映しているものと思われた。一方、受診歴無しと回答した割合は 13~20% ほど見られたが、40 歳以上で乳がん検診が推奨されていることを知っているとは回答したのが 72.8% あり、検診の事業自体は広く認知されていることが伺われた。検診を受診しない理由として 40 代においては検診を受ける時間がない、休暇が取れないことを理由としているのが特徴的であり、検診提供者側の対策次第で改善できる余地を伺わせる内容であった。アンケート調査結果を解析し、今後取りうる対策について考察したい。

A. 研究目的

乳癌検診の受診率向上は、社会的に検診の効果を発揮するためには必須の事項であるが、我が国においては欧米諸国との比較で受診率が低いことが問題とされている。本研究では乳がん検診の受診率に影響を与える因子の解明と、その対策について検討することを目的としている。

B. 研究方法

乳癌検診の受診対象となる年齢層の女性に対し、検診の受診動機や受診の障害となる因子を検討する目的でアンケート調査を行った。

(倫理面への配慮も記入)

インターネットによる匿名の調査による集計であり、個人情報については扱っていない。

C. 研究結果

インターネットを通じたアンケート調査を楽天インサイト社に委託し、2024 年 2 月に実施した。回答は各都道府県から 100 名、合計 4700 名からの回答を得た。

検診の受診契機は 40 代、50 代では住民検診と職域検診とがおよそ 30% ずつであるのに対し 60 代以降では住民検診での受診率が高くなっている。

受診の間隔は 40 代 50 代でおよそ 3 割が毎年受診していると回答しており、職域検診での受診を反映しているものと思われた。

一方、受診歴無しと回答した割合は 40 代でおよそ 20%、50 代以降で 13~16% だった。検診の受診歴の無いと回答した 734 名でも 40 歳以上で乳がん検診が推奨されていることを知っているとは回答したのが 72.8% あり、検診の事業自体は広く認知さ

れていることが伺われた。検診を受診しない理由として必要と感じたときにいつでも医療機関を受診できることが 22%あり 50 歳以上の世代でこの傾向は顕著であった。40 代においては検診を受ける時間がない、休暇が取れないことを理由としているのが特徴的であった。

D. 考察、

今回のアンケートから検診の受診契機は年代によって変化することが改めて確認され、受診率向上の方策も年代によって変化させることが必要であろう。検診費用に関しては受診しない理由としては 17%ほど、受診した理由としても 35%が有用との意見が集まっており、大きなファクターと考えられる。また職域で検診を受けている割合の多い 40, 50 代では時間の無さ、休暇が取れないことが一定の割合を占めており、有給休暇の適切な運用、検診休暇の取得義務化などの行政側からのアプローチも考えられる結果であった。

今回のアンケート調査はインターネットを経由した調査であり、デジタルデバイスの使用に慣れた女性だけが参加しているといったバイアスは否定できない。一方でアンケートの結果に出ていないアンケートの集積状況の中間報告では年代に大きな偏りなく票数が増えて居ることを報告受けており、スマートフォンなどの機器の普及状況は基幹インフラとして備わっており、この利用を受診率の向上につなげるアイディアも検討したい。

E. 結論

インターネットを経由したアンケート調

査の結果を解析し、乳癌検診受診率に影響する因子の調査を行った。各年代、各社会的な立場において有効な受診率向上の方策の検討を継続する。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

鈴木昭彦「乳がん検診」月刊地域医学、38(2), 147-151, 2024

2. 学会発表

第 31 回日本がん検診・診断学会総会「乳がん検診におけるマンモグラフィと超音波の役割」(主題 4 乳腺) 福岡県福岡市(福大メディカルホール) 2023 年 6 月 24 日

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

乳がん検診の受診率に関わる諸因子の解明と、受診率向上に向けた効果的な方策に資する研究に関する研究協力のお願い（アンケート）

マンモグラフィによる乳がん検診は、乳がん死亡の減少が証明されている検診方法ですが、日本においては、なかなか受診率が向上しない現状にあります。受診率向上に向け、今回「乳がん検診の受診率に関わる諸因子の解明と、受診率向上に向けた効果的な方策に資する研究」について、調査研究を行うことになりました。

本研究の第一歩として、乳がん検診の対象となる 40 歳-75 歳の女性を対象とし、乳がん検診を受診した動機等の調査を WEB 上でのアンケート方式で行います。なお、受診していない女性に対しては、受診していない理由についてお伺いします。

回答に要する時間は、およそ 5 分間で、アンケート結果は、全て WEB 上で完結します。

研究の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力いただける場合は、以下のチェックボックスをご確認いただき、「同意します」にチェックをお願いいたします。

なお、本アンケートは、無記名での回収となりますので、ご提出後の撤回はできません。

研究（アンケート）協力に当たり、以下の内容をご確認、チェックをお願いいたします。

- 研究への協力は皆様の自由意思に基づくものであり、アンケート調査にご協力いただけない場合でも不利益を受けることはありません。
- 協力をお引き受けいただいたあとでも、アンケートを提出（返送）しないことによって研究協力を取りやめることができます。アンケートの提出をもって研究協力を同意したとさせていただきます。
- アンケートは無記名で行いますので、個人が特定されることはありません。
- 研究の成果は、学会等での発表を考えています。その際、個人が特定される情報を公表することはなく、個人情報を守られます。
- 回収したアンケートは、研究者が責任をもって厳重に管理し、本研究以外に使用することはありません。また、研究終了後は、10 年間保管後、適切な方法で廃棄します。
- この研究は、東北医科薬科大学倫理委員会の承認を受けています。特定の企業等から支援を受けて行うものではなく、利益相反は存在しません。
- 研究（アンケート）に関する疑問や質問が生じた場合は、下記連絡先までお問合せください。

私は本研究に参加することを同意します。

<連絡先>

住所；983-8536 宮城県仙台市宮城野区福室 東北医科薬科大学 医学部

電話；022-290-8850（代表）

研究代表者 鈴木 昭彦（乳腺内分泌外科 教授）

乳がん検診の受診率向上に関わる因子を検討するためのアンケート調査（案）

年齢を教えてください

40－49 歳

50－59 歳

60－69 歳

70 歳以上

最近の乳がん検診について教えてください

検診を受けた時期はどれですか

毎年受診している

2年に一度受診している

2年以上前、5年未満の間で受診した

5年以上前に受診した

乳がん治療中のため検診受診していません

受診歴なし ⇒⇒ 問 XX へ

受診した乳がん検診は次のどれですか

住民検診

職場の検診

配偶者の家族として受けた検診

個人的に申し込んで受診した検診

その他（医療機関での経過観察など）

検診の方法はどれですか

マンモグラフィのみ

マンモグラフィ+超音波

マンモグラフィ+視触診

マンモグラフィ+超音波+視触診

超音波のみ

超音波+視触診

視触診のみ

その他 (PET, CT, MRI)

あなたが検診を受診した動機として挙げられるものを教えてください (複数回答可)

家族や友達など身近な人ががんにかかった人がいるから

職場や地域で必ず受けるように指導されたから

自治体からの広報活動 (パンフレットなど) で知った

他疾患の治療中、医療者に勧められた

家族や友人に勧められた

職場の上司、同僚に勧められたから

学校や職場のがん教育を受けたから

テレビやラジオで知ったから

新聞で知ったから

インターネット (SNS 以外) の広告で知ったから

LINE, Facebook, Instagram, X, などの SNS で知ったから

手紙や電話で直接受診を勧める連絡、再連絡があったから

休日や夕方遅い時間などの利用が可能だったから

受診しやすい会場で検診が行われたから

検診費用の補助 (自治体、職場) があったから

早期発見、早期治療のため

乳がん検診を受診したことがない方への質問です

日本では40歳以上の女性に対し、2年に一度のマンモグラフィによる乳がん検診が推奨されています。

40歳以上で乳がん検診が推奨されていることを知っていましたか

はい

いいえ

検診を受診していない理由はなんですか（複数回答可）

- 心配なときはいつでも医療機関を受診できるから
- 費用が掛かり経済的負担になるから
- 受ける時間がないから（休暇が取れない）
- 子供の世話、介護など家庭の事情で時間が確保できない
- 血縁者に乳がん患者がいないので必要性を感じない
- 自分なりに乳房を観察し問題がないから
- 検査内容や検査に伴う苦痛の程度が分からず不安だから
- がんであることがわかるのが怖いから
- がん検診そのものを知らないから
- 検診の意義（効果・利益）が分からず、必要性を感じていない
- 乳がん検診は知っていたが、開始年齢を知らなかったから
- 検診の申込み方法が分からなかったから
- 受診勧奨を受けていないから
- 検診を受けても見落としが有ると思っているから
- 受ける場所が不便だから

受診できる状況が得られれば乳がん検診を受診したいと思いますか

- 強く受診したいと思う
- どちらかといえば受診したいと思う
- どちらとも言えない
- どちらかといえば受診したくない
- 全く受診したいと思わない

検診の受診者数を増やすために必要な社会的取り組みは何だと思えますか（複数回答可）

- 受診の機会を増やす（年に何度かの検診時期を設定する）

休日受診、イブニング受診など診察時間の多様化
検診休暇の設定、取得義務化
がん検診の意義（効果・利益など）の教育と普及
検診料の補助の拡大、無料化
検診受診のポイント化